

本セッションでは1編が講演中止であったため、5編の研究発表があった。その内容は溶存有機物（DOM）関連が2編，香料等の一斉分析法が1編，抗生物質関連が2編であった。

3-A-9-1では，DOMの分子サイズの測定に高感度，高分解能のTOC検出器サイズ排除クロマトグラフィーの機器開発を行い，それを使用して標準品としてポリスチレンスルホン酸（PSS）を用いて分子サイズの測定を行い，実サンプルとしては霞ヶ浦湖水におけるDOMの分子サイズの分布を調べた研究発表であった。質疑で機器の発売が待ち望まれているとの印象を持った。

3-A-9-2では，3次元励起蛍光スペクトル法を用いてのDOMの特性評価の研究発表であった。それは，霞ヶ浦湖水や流入下水に樹脂分画手法を施し，フミン/非フミン画分に分画後，フミン様物質由来であるとされている励起/蛍光ピークを測定し，そのピークがどちらの画分に存在しているかという内容であり，非フミン分画にもピークが存在していると報告している。

3-A-9-4では，6万トンと生産量が推定される香料と推定2千トンながら生物蓄積性が報告されている紫外線吸収剤の多成分一斉分析方法の確立と環境中濃度の測定の研究発表であり，環境中挙動の推定及びリスクアセスメントを目的としているとのことであった。

3-A-10-1では，抗生物質の河川および地下水汚染の研究発表であり，畜産業が盛んに行われている地域を詳細に調査した結果，家畜排水由来の抗生物質が河川はもちろんのこと地下水をも汚染しているとの報告であった。

3-A-10-2の研究発表では，生下水中における抗生物質の24時間変動の特性評価であり，薬剤の特性により人の排泄行動と密接な関係があるとの報告であった。

最終日の朝9:00からのセッションでもあり，50名を越える程度の参加者であったが活発な質疑応答が行われた。

（神戸市環境保健研究所 高原 信幸）